

白鳥

わが胸底に一羽の白鳥住めり
鮮麗なる装ほひと

只一つなる希ひに燃えて

あはれ やさしき白鳥住めり

日もすから 歌もなく

黄金なす波に浮びて

あえかにも望郷の憂ひに沈む

圓らなる その瞳

柔かき その額

未だ故郷の形を知らず

かぞいろに限りなく夢は馳せちる

あはれ やさしき白鳥よ

何時の日より わが胸に來り住めるや

はた何時の日 わが胸を離れて

うろはしの郷に馳せるや

おん身 かくて残り少なきわが日々を啄ばみ

只一つなる望郷に燃えて

わが心のうろ深く

静かに水脈をひろげゆく

春浅き昨日も今日も……

あはれ わが胸底に

一羽のやさしき白鳥住めり